

足湯隊

新潟県中越沖地震復興支援

被災地NGO協働センター代表 村井雅清

新潟中越沖地震から3ヶ月が過ぎ、少しずつ暮らし再建の道筋が見えて来られています。もちろん、全く見通しの立たない方もおられます。そういう中で神戸からの”足湯ボランティア”や地元社協・中越復興市民会議・外部ボランティア(当センターも参加)などが共に行っている”寄り添いプロジェクト”が活躍しています。阪神・淡路大震災から04年の

中越地震、そして能登の経験も踏まえて今回の中越沖地震と、被災地連携が身のあ



♥ 寄り添いプロジェクトとは、

ボランティア活動を通じて、被災された住民の方々と関わり、何気ない会話の中から、その方の思いや不安などの声を拾い、集められた声は、より住民本位の支援が出来るよう行政や支援機関にお届けするものです。

また、定期的にボランティアが関わることで「ひとりじゃないですよ」「応援しています」というメッセージを送り続け、復興への希望を持っていただきたいという思いがこめられています。

■ 生協連合会きらりが呼びかけたカンパで210万円強が中越KOBE足湯隊(事務局:被災地NGO協働センター)に寄託されました。

料理研修

あしすと武庫之荘で毎月1回行っている研修の報告です



12回目 食欲の秋(旬の素材で秋を感じる)

- しめじの炊き込みごはん
- さんまのムニエル
- とうふとワカメのすまし汁
- 酢の物
- 季節のくだもの

味覚、嗅覚、視覚、から食欲がわくように献立しました。

あしすと武庫之荘 水崎佳子

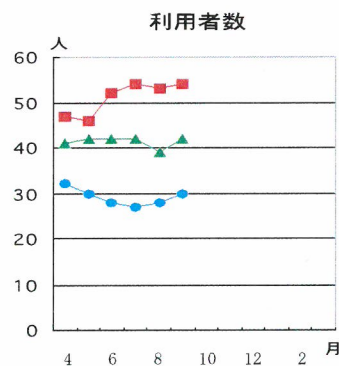
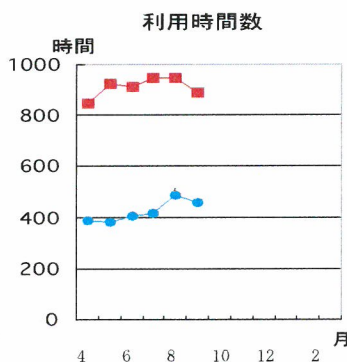


2007年度☆介護保険事業報告

- ★あ・し・す・と (垂水)
- ★あしすと武庫之荘 (尼崎)

●現在、2つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業を行っています。
●武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)、障害福祉サービス事業も行っています。

- 垂水
- 武庫之荘
- 居宅介護支援



介護無料相談 (月~金/9:30~17:00)

都市生活ヘルパーステーション あしすと武庫之荘

☎ 06-6433-8487

介護無料相談 (火曜/13:30~17:00)

都市生活ヘルパーステーション あ・し・す・と

☎ 078-755-1455

高齢者の 終の棲家を 考える

去る9月9日(日)、NPO法人しみんふくし滋賀(本部事務局:滋賀県近江八幡市永原町上12)が事業運営する小規模多機能型施設「しみんふくし滋賀 材久さん」(「材久さん」)の視察に行ってきました。このNPO法人には理事として、また「材久さん」の代表としてとして大活躍されている富板能婦子さん(介護福祉士)がいらっしゃいます。彼女はかつて生協都市生活の福祉担当理事として、都市生活コミュニティセンター(TCC)の基盤づくりに尽力され、その後郷里の滋賀県に転居されたのです。今回の視察は、その富板さんのお誘いで実現しました。(視察には、佐々木理事長をはじめ前川相談役、他5名が参加しました。)

第二回 「しみんふくし滋賀 材久さん」 TCC事務局スタッフ 小松高志

■ 「材久さん」は、小規模多機能型居宅介護事業所

小規模多機能型居宅介護とは、ひとつの事業所が「通い」(デイサービス)を中心としながら、さらに「訪問」(ホームヘルプサービス)や「泊まり」(ショートステイサービス)を組み合わせ提供するサービスを言います。もちろん、ケアマネージャーも常駐しています。これらのサービスを連続的・一体的に組み合わせることによって24時間・365日間切れ間無く「安心」を提供していけます。例えば、「通い」で顔なじみの介護職員に、「訪問」でもお世話になる。しかも、その介護職員とケアマネージャーは同じ事業所に勤務しているから、高齢者や家族に関する情報の共有がスムーズかつ緊密にされている。様々なサービスを丸ごと提供出来るから、一人々の高齢者や家族を丸ごと支援できる。そんな顔なじみのサポート態勢が期待できるこの小規模多機能型居宅介護は、今、全国で脚光を浴びています。

■ 材木商の居宅兼店舗(「材久」は屋号)跡が事業所

その事業所は、近江八幡市内の、町屋風情の色濃く残る静かな街並みの中にひっそりとたたずんでいました。界限には



通りから見た材久さん

鉄筋コンクリートづくりの住宅や高層ビルが全くと言っていいほど見かけない不思議な空間でした。ほのぼのとした懐かしさに誰もがホッとする、そんな空気が漂っているのです。「材久さん」は明治時代に建てられた空き家になっていた町屋を借り受け、小規模多機能型居宅介護事業所として改修し、平成19年2月から運営を開始しました。

120有余年の年輪を刻む質素にして堅牢な作りのお家です。間口が比較的狭く奥行きのある細長い敷地。中庭があり、室内に適度な明るさをもたらしています。格子戸越しに見える表通りの風景は、まるで古き良き時代にタイムスリップしたような感覚です。そんな昔の町屋の良さを生かしながら、介護を必要とされる方が安心して利用できるようバリアフリー改装などの配慮もされていました。また、高齢者だけでなく、地域の方が交流できるスペースも設けられていました。そこでは、なんと定年退職男性からなるボランティアグループが“おやじ

喫茶”と称して豆から挽いたこだわりコーヒーを提供しているとのこと。ちなみに、この町屋の改修作業においては、大がかりな清掃や障子の張替え、庭木の剪定や庭園(左写真)の手入れなど、このボランティアグループや地域の大学生、地域住民が大活躍されたそうです。



りな清掃や障子の張替え、庭木の剪定や庭園(左写真)の手入れなど、このボランティアグループや地域の大学生、地域住民が大活躍されたそうです。

■ 多種多様な人々や組織がNPOに参集し、活動を支援

NPO法人しみんふくし滋賀のルーツは今からちょうど20年前までさかのぼります。この間、住民参加型福祉の先駆的存在として、24時間保育や給食・配食事業、介護保険事業などに取り組んできました。昨今では、滋賀県におけるコムスンからの事業譲渡が決定しています。これは、NPO法人としては全国で唯一です。もともと、行政や社会福祉協議会、商工会議所や他の民間セクター、そして住民ボランティア等とゆるやかな連携を図りながら事業を行ってきました。20年間の足跡、そこには多種多様な人々や組織とのネットワークがあったのです。それぞれの役割を通じてNPOにかかわりながら、それぞれの思いを実現していく。立場・背景・人脈が違うからこそ、1+1が2にとどまらぬ相乗効果の果実を实らせる。真の地域に密着した組織とはこのようなことを言うのでしょうか。地に深く広く根を下ろしている組織だから、社会的な信用や評価も高まっています。コムスン事業の受け皿となれたのも町屋の借り受け先として認められたのも、そして何よりその街で暮らす高齢者や家族からの信頼を得ているのも、全ては偶然の出来事ではなく、必然的な帰結だったのです。



喫茶室にもなる空間